



めざせ! 南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学校便り

令和5年 7月国際交流号
ヨハネスブルグ日本人学校

オランダ孤児院との国際交流を行いました!



今年度2回目の国際交流は、オランダ孤児院のこどもたちを訪ね、交流を行う内容でした。ご存じの方も多いと思いますが、この「オランダ・チルドレンズ・ホーム」は、1940年に設立され、2代目のマジブコ院長と共に多くのスタッフが、子ども達の将来を考え、愛情をもって指導にあたっています。日本政府や日本人会との関わりも深く、5年前には政府の資金援助によってりっぱな体育館が建てられました。

この孤児院は、よく耳にする黒人居住区であるヨハネスブルクの南西部ソウェト(SOWETO)にあり、地名の由来は、South West Townshipsの略です。日本では、高等学校の世界史等で人種隔離政策であったアパルトヘイトやソウェト蜂起について学ぶ機会があるようです。

JSJの子供たちは、その概要について、事前学習で担当教師から学び、数回の準備や話し合い後に当日を迎えました。日本の遊びである「はないちもんめ」「福笑い」などの紹介、そして南アの遊びもたくさん教えてもらいました。ペアになった者同士がしっかりとお互いの表情を見合いながら、たくさんの活動を通して直接触れ合い、可能な限り英語での会話も行いました。ホームの子供たちは、日常、ズール語を話すことが多いようです。

南ア国が過去の反省を糧に、様々な人種が融和し、それぞれの色を輝かせる「虹の国」の実現には、さらに多くの努力が求められるでしょう。さらに将来、美しい虹をかけるため、その一翼を担う子供たちの目はとても輝いていました。

ホームの交流を通し、JSJの一人一人の子供たちが得られた貴重な体験。彼らの将来に今回の体験が大きな意味をもつことを心から願ってやみません。



マジブコ院長先生、オランダのみんな、招待してくれてありがとう!
来年の交流を楽しみにしています。

